

2012年1月18日

全国の教会・伝道所の皆様

現地支援委員会 委員長
郡山コスモス通り教会 鈴木 牧人

『現地支援委員会ニュースレター』第3号ご送付の件

主の御名を讃美いたします。

日頃から私たち東北にある教会・伝道所の被災地における歩みのために、覚えてお祈りくださり、心から感謝いたします。

新しい年を迎えました。ニュースレター第3号をお送り致します。ぜひ貴教会にて掲示していただいでご覧いただき、共に祈りを合わせていただければ幸いです。

今回のニュースレターでは、いつもの被災地報告に加えて、昨年、各被災地で行われたクリスマスプログラムの様子を掲載しました。今回、日本バプテスト宣教団からクリスマスブーツを提供していただき、その中にお菓子などを詰めて、避難所の方々にお届けしました。その他、各地から届けられたクリスマスプレゼントを届けることができました。皆さん、大変喜んでくださいました。

また福島の現状報告として、郡山コスモス通り教会の斉藤はるか姉の証を掲載しました。郡山市の子どもたちは、2011年10月から、被ばく量を測定するためのガラスバッチを携帯して生活しています。一定期間携帯した後、学校を通して検査機関に提出し、累積した線量が保護者に通知されます。放射能問題と日々向き合わされながら歩みを続けていかなければならない福島の今の状況があります。

年が明け、一気に寒くなってきました。仮設住宅の皆さんにとって、この冬はとりわけ厳しいものではないかと思えます。岩手の仮設住宅では、未だきちんとした防寒対策がされていないような住居もたくさんあると聞いています。また原発避難で福島市や郡山市等の仮設住宅に住んでいる方々は、本来、海沿いに住まわれている方々ですから、内陸の冬の寒さに慣れていません。ぜひ、皆さんの体調が守られるようにお祈りください。

もうすぐ震災から1年が経とうとしています。今年の3月11日は、日曜日です。東北地方連合では、この日の礼拝を「東日本大震災を覚える礼拝」とし、各教会・伝道所で礼拝を献げていこうと呼びかけています。もしご賛同いただけましたら、貴教会でも、震災を覚えての礼拝を献げていただけると幸いです。

最後になりましたが、貴教会・伝道所の歩みの上に、主の祝福と恵みが豊かにありますように、心からお祈りしております。

皆様のご支援に心から感謝して。

在 主